



岩手県人会ニュース

203号

ふるさとだより ■ 併合 記事提供 岩手日報新聞社 *Iwate News*

2019年11月発行

69回 誕生会・各種事業ボランティアの慰労会 69º Aniversariantes e Otsukaresama de Eventos



8月25日(日)第69回目の会員交流誕生会とわんこソバ・コロッケ作り、日本まつり等のボランティアへの慰労会を兼ねた、合同祝賀会が開かれ70名以上が参加し盛りあがった。(上の写真すでに退席された方々もいた)

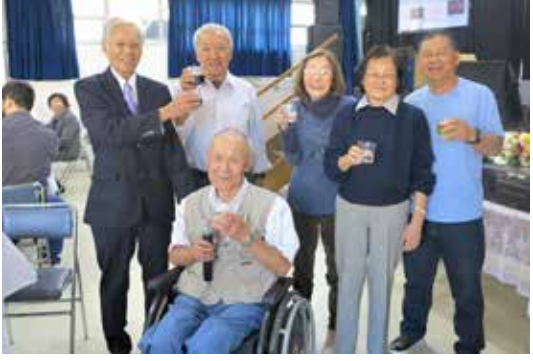
大関多田照子さんの開会で、先亡者へ一分間の黙禱につき、千田会長から恒例の誕生会と、諸事業に多大な協力を頂いた方々に感謝を述べ「わんこソバ大会 - 日本まつり」の反省点や成果も公表された。



今回の日本まつりに初参加した千田潔君が自己紹介し、楽しかったと話していた。

今回も沢山のバラ束を頂いたアチパイアの及川公雄さんの音頭で乾杯し、豪華な仕出し料理を頂きながら懇親会

が賑やかにこなされた。



頃合いから故・大崎孝行さんの奥さん「オキヨさん」と妹さんで懐メロに合わせた踊りの披露があり大きな拍手があった。

また、県人会60周年を記念した「記念誌」の内容や進行状況が報告され、記念誌へ投稿の依頼もあった。



JICA ボランティアで、レジストロ文協で地域活性化活動を行っている「山口 碧(盛岡市)さんを紹介し、活動の目的などを話して頂いた。



「ビンゴ」^{みな まち} 皆さんお待ちかねのビンゴがあり、^{かくしゅうひん めあて すう} 各種賞品を目当てに数
^{じあわ たの きょう} 字合わせを楽しみながら興じていた。



「誕生会」は、5月から8月生まれの方々の誕生を「ケーキ」を
^{かこ うた みな くぼ とも いわ} 囲んでパラベンスを歌い、ケーキも皆さんに配られ共に祝った。

令和 新天皇ご即位 日系コロニアでも奉祝

10月22日夜、「令和」^{れいわ てんのうへい か} 天皇陛下のご即位を国内外に公けに披露
^{そくい れいせい でん} する「即位礼正殿の儀」に合わせ、^{にっけいしゅうだんたいしゅさい} ブラジル日系主要団体主催に
^{ほうしゅうばんさんかい} より「奉祝晩餐会」が、^{しな} 市内のシルク・ミリタール会場で行われた。
^{しょうたいしゃ あつけんじんかいかんけいしゃ とお はな たしゅう めい} 招待者や各県人会関係者はじめ遠く離れた他州から700名が「ご
^{そくい いわ} 即位」を祝った。

式典挨拶で在サンパウロ野口泰総領事は、^{てんのうへい か} 天皇陛下は2008年の
^{にほん い みん しゅうねん} 日本移民100周年にも、^{らいはく にっけいじんみな} ご来伯され日系人皆さんに親しみを込めて
^{せつくだ} 接して下さったと述べた。

^{けんじんかいれんごうかいやまだ やす お かいちよう} 県人会連合会山田康夫会長がの万歳三唱の掛け声に、^{ごえ にっけいりょうこつ} 日伯両国
^{きん かしゃ はた かか ぜんいん てんのうへい か そくい しゅうふく} 旗をもった参加者が旗を掲げ、全員で天皇陛下のご即位を祝福した。



※ 1972年宣教師として赴任した「堀江節郎」さん(釜石出身、県人会調査時にはサンパウロ在、現在北伯のロライマ州在)の姪子の伊藤聖子さん、若葉さん姉妹(旅行中)を伴って県人会に来館。



8月24日 北海道協会創立80周年・県人移住100年式典に会長参加。25日 宮崎県人会創立79周年式典に会長出席。※ 第69回会員交流誕生会諸事業の慰労会等が会館で行われ、73名が参加した。

26日 首都東京大学丹野清人教授1年ぶりに来館9月7日帰国
29日 県連代表者会に会長出席

9月6日、パラ州トマス移住地入植90周年ディナー夕食会に会長参加。

岩手県人会事務所来訪者数 (Visitantes da associação)

1月 216名、2月 319名、3月 299名、4月 341名、
5月 335名、6月 178名、7月 295名、8月 286名、
9月 271名、10月 224名、1月-10月 累計 2.864名、

会費納入者名 (Nome dos contribuintes da associação)

7月 大崎みどりリリアン (Irian Midori Oosaki)、比嘉泉レイコ・カチア (2018-2019 Katia Reiko Izumi Higa)、

8月 峰紀代子ソフィア (Sofia Kiyoko Mine)、高橋ケイ; ファルテル (Varter Key Takahashi)、高橋久子 (故・凡児氏夫人 Hisako Takahashi)、稗貫義友 (Yoshitomo Hienuki)、丹野清人 (Kiyoto Tanno, 在日本賛助会員)、梅田イラセマ (Iracema Yoko K; Umeda)、菊池達郎 (Tatsuro Kikuchi)、大関照子 (Teruko Oseki)

10月 田鎖満 (Mitsuru Takusari)、佐々木憲輔 (Kensuke Sasaki)、佐々木健次 (Kenji Sasaki)、飯塚のりこ (Noriko Iizuka)、安武俊樹 (Toshiki Yasutake)、

11月 柏木成一 (Seiichi Kasiwagi 新 賛助会員)、

※ ご協力ありがとうございます。

ブラジル県人会賛助会員の会 会費納入者名 (敬称略)

※ 会費納入者の中には何年分と先払い者で(吉田恭子さん、杉村延広さん)のお名前は下記に記述されておられません。

清水奏宏、清水キミ、藤沢清美、菊地光明、松本トミ、菅原圓雄、一戸和、熊谷澄子、坂本洋、高橋良平、玉沢徳一郎、中村一郎、藤村とも子、武藤千賀子、吉田英子、菊地克昌、真崎良平、高橋典克、小田島栄、伊藤栄喜、菅野一成、佐々木栄洋、和賀武耕、久慈浩介、滝川良一、山澤順三、佐藤節夫、小関浩喜、桑島治仁、沼崎喜一、黒沢寛、大和田加代子、米沢廣次、中里福次郎、三上牧蔵、福田廣平、工藤容子、山上衛、山本サツ子、国吉瑞穂、藤村秋夫、岩船信一、増田稲子、佐藤正雄、北条真由美、

※ 皆様方のご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

14日 役員会開催

22日 和歌山県人会65周年に会長、手島会計夫妻参加

26日 県連代表者会に会長参加

10月3日 会員へ記念誌用2回目の寄稿文依頼状発送

10日 県国際交流協会発足30周年へ会長の祝詞を発信

22日 令和天皇ご即位奉祝に千田会長、平野副会長、川村夫妻(書記、監査)が参加し祝った。

27日 平野マリア副会長青森県人会65周年式典参加

28日 吉田恭子県賛助会会長の案内で菊地義治名誉会長は県国際室を訪問し、部長や室長と懇談した。熊谷瑞穂主事から日報紙、写真の送付がメールであった。



31日 県連代表者会に会長参加

岩手県人会図書貸出 冊数 - 利用者数

Quantidade de livros e usuários da biblioteca da Associação Iwate

1月 337冊 69名、2月 330冊 72名、3月 401冊 74名、
4月 345冊 72名、5月 378冊 76名、6月 286冊 67名、
7月 351冊 76名、8月 322冊 68名、9月 397冊 74名、
10月 283冊 62名、1-10月 累計 3.430冊 648名

吉田 真紀 さん来館 公邸料理士

10月21日午後、マナウス総領事館公邸料理士の吉田真紀さんが、八重樫亜紀さん(2016年の岩手県研修生)、父のパウロさんの案内で来館された。

吉田さんは今年3月にマナウス領事公邸の料理士として赴任した。現地マナウスでは食材の違いなどを調査したり物品の買い物など、また、亜紀さんに案内されレストラン「愛染」で食事されたとの事。(写真 右から吉田さん、八重樫パウロさん、亜紀さん)



逝去者のお知らせ Falecimentos

橋本 敏郎 氏 (Toshiro Hashimoto. 行年84才、東京都出身 賛助会員)は、8月10日永眠されました。



佐々木 憲輔 さん (Kensuke Sasaki. 行年72才、盛岡出身、1960年4月9日アルゼンチン丸渡伯)は、永らく病氣療養中でしたが、8月30日急逝され、翌31日午後サンベルナルドの Jardim Corina 墓地に埋葬されました。氏は長年県人会理事・副会長を務め、援護協会の役員、自閉症(Pipa)の担当者として活躍されました。

高橋 清 さん (Kiyoshi Takahashi 行年92才、宮崎県出身、賛助会員)は、永らく病氣療養中のところ10月6日永眠されました。

※ 亡くなられた方々のご冥福を祈ります。

大型台風19号 広範囲に水害

特に岩手県では、沿岸部が被災
3月に全線再開通した三陸鉄道も



先の千葉県地方で大きな爪痕を残した台風15号に続き、大型台風19号は大雨により関東一円から東北地方に、住宅地や田畑が河川の氾濫に加え土砂崩れなど広範囲で大きな被害をもたらした。

県人会では岩手の知人宅に電話したり、ニュースで情報収集にで勤めた結果、被害が大きかったのは2011年3月11日の東日本大震災の津波により、尊い人命や広範囲な被害を被った沿岸地方一帯でした。初めに被災地方の方々に心からお見舞いを申し上げます。

「沿岸部の足 三陸鉄道」

東日本大震災で大きな被災を被った、三陸鉄道は今年3月に全線が再開通したが、163キロの全線で少なくとも63カ所に被害が出ているという。宮古駅と釜石駅区間の線路への土砂崩れや盛り土のり流失等被害があった。土砂により線路が埋まったり、盛り土など流され線路がちゆうぶらりんになった箇所もあった。

三陸鉄道リアス線は沿岸部住民や観光客にとっても大きな足となっ

て、沿岸部の経済を支えていたのではないかと。

現在復興の見通しは立っていないとの事で、不通区間は代替えバスの運行に頼っている。

「各地の洪水被害」

サケの遡上シーズンを迎える沿岸一帯。大船渡市を流れる盛川など、サケの捕獲施設に被害が出て捕獲が出来ないでいる。遡上するサケから採卵し稚魚を放流していた。陸前高田でもサケ捕獲施設に被害。大槌町ではサケ捕獲や特産のカキやホタテ養殖施設に被害。

山田町田ノ浜地区では津波対策の防波堤が障害となり(人災とか)、雨水や濁流が堤防の排水溝が詰まりダムようになり、70戸ほどの住宅が地階天井まで浸かった。県人会の知人で2011年の大津波では免れたが火災が発生し住宅は消失。新築した家を含め同地区の家屋は洪水で土台等ずれ柱も傾いていたとの事。

北は復興途中の宮古地方田の畑では野球場や駅などが集まる中心部に水があがり建物が被害を受けたとある。その他岩泉町、譜代村などの被害が報告されている。

内陸部では江刺地方のリンゴが強風で落下したり、農作物の被害があったようである。

各地方では停電や水道が止まったり、想像以上の災害だったと思われる。

「災害お見舞い」

県人会では名誉会長菊地義治氏が、天皇陛下の即位礼正殿の儀に招待され参列されるのを機に、急遽県人会から気持ちとして災害の「お見舞い」を岩手日報社長根千万億社長に寄託した。



県人会で日本語教室 AULAS DE JAPONÊS

A associação Iwate Kenjinkai tem aulas de japonês para iniciantes todos os sábados a partir de 14h30.

A professora Leila ensina japonês com base em figuras, cartões, áudio e vídeo e outros materiais.

Mais informações e inscrição com Washington (11) 98193-8203

Inscrição R\$ 60,00 (associados R\$ 40,00)
Mensalidade R\$ 60,00 (associados R\$ 40,00)



お知らせ 県人会の行事 (Eventos de Kenjinkai)

12月14日(土) 餅搗き 白餅を販売します。1袋 500g R\$ 16,00

14/12/2019 (sab) Motitsuki Venda a Moti Pacote 500g R\$ 16,00

※ お手伝いをお願いします



忘年会 2019 誕生会・Bonenkai 2019

12月15日(日) 12時より忘年会を開催します。

食事は申し訳ありませんが、持寄りをお願い致します。

飲物その他は県会で用意いたします。

Almoço e Motiyori - Bebidas e bolo por conta do kenjinkai

61回定期総会 - 新年会

61º Assembléia Geral e Shinnenkai

日時 2020年1月26日(日) 定期総会 午前10時より

data e hs; 26/01/2020 (domingo) Partir de 10hs

引続き総会後新年会があります。após Assembléia Shinnenkai



新年会 Comemoração de Ano Novo 2020

(食事は - Buffet Amami) 会費 R\$ 50,00

Participante - pagamento R\$ 50,00

準備の都合上 1月21日まで参加者人数をお申し込み下さい

Favor reservar quantidade de pessoas até 21/01/2020

ふるさと だより (17)

記事提供 岩手日報社

WEB NEWS

北国バナナ たわわ 北上・定植1年、 初の収穫 2019.10.01

北上市平沢で栽培されているバナナ「北上縄文実芭蕉（バナナ）」が30日、初めて収穫された。農薬を使わずに皮まで食べられる北国のバナナがよいよ出荷を迎えた。

ビニールハウス内のバナナは房が幾重にも連なり、実は長さ20センチほどに成長。栽培する同市の農業法人・ごろすけACファーム代表取締役の大沢啓造さん（70）が緑色の6房、約130本分をはさみで収穫した。

大沢さんは「無事に育ち感無量。まるごと食べられるなど、既成概念を打ち破れたらいい」と喜んだ。5日ほど追熟し、消費者へ届ける。

特殊技術で耐寒性を強化した種苗を導入し、昨年9月に42本を植えた。1回の収穫期で計約7500本を収穫できる見込み。3年で5回の収穫が可能だ。

同ファームは苗の栽培支援のメンバーシップ制度を立ち上げ、1口2万円でバナナ20本を提供する。申し込み、問い合わせは大沢さん（090・8179・8664）

写真 ずしりと実ったバナナを収穫する大沢啓造さん＝30日、北上市平沢



地熱施設の探検、大人もワクワク

八幡平市で「発電の日」ツアー 2019.10.09

八幡平市の地熱関連施設を巡るツアー、大人の地熱探検隊（市主催）は「地熱発電の日」の8日、市内で行われ、発電所や地熱を生かした産業への理解を深めた。

市内外から約60人が参加し、松川、松尾八幡平（ともに同市松尾寄木）の両地熱発電所の内部を見学した。地熱を利用したバジルやマッシュルームの栽培に取り組む施設や、蒸気を使った染め物の工房なども訪れ、地元に根付く地熱の力を実感した。同市田頭の工藤和代さん

(76)は「自然の力を使って電気を作ることの素晴らしさや、今後への可能性を改めて感じた」と学びを深めた。



10月8日は、1966年に松川地熱発電所が国内初の商業用地熱発電所として運転を始めた日で、2016年に地熱発電の日に制定された。同市では本年度、地熱資源を活用した施設や取り組みについて市民の理解促進を図ろうと、児童生徒向けの探検隊も開催。市内のホテルなど10施設では20日まで、地熱にまつわるパネル展示も行っている。

ロケ地久慈で完成披露上映 のんさん出演の映画

「星屑の町」 2019.10.12



久慈市などがロケ地となった映画「星屑（ほしくず）の町」（杉山泰一監督）の完成披露上映会

は10日、同市川崎町のアンバーホールで行われた。NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の主演女優のん（本名能年玲奈）さんがヒロインとなり、同市の新たな魅力を引き出した作品。約250人が来場し、地

元を舞台に繰り上げられる物語を堪能した。

映画は5月に同市山根町や久慈地下水族科学館もぐらんぴあなどで撮影し、同市内のエキストラ約100人が参加した。ムード歌謡コーラスグループ「山田修とハローナイツ」の悲哀を描いた作品で、のんさんは歌手を夢見る田舎娘役。上映中は何度も笑いが起き、エンドロール後は大きな拍手に包まれた。

完成披露上映会は今回が全国初。杉山監督とプロデューサーの高橋正弥さんが壇上で映画の魅力を語った。のんさんもビデオメッセージで登場し「地元の人が温かく迎えてくれた。海でなく山の久慈は初めてで新鮮。山菜などもおいしかった」と思い出を語った。

写真 映画は2020年春に全国公開 映画「星屑の町」をPRする関係者や市民

土砂、自宅襲うも一命 普代・

芦生さん、2階での就寝が幸い

2019.10.15 台風19号で降り始めからの総雨量467ミリを記録した普代村は、中心部で土砂災害や冠水が相次いだ。自宅1階が土砂に埋まった芦生（あしおい）ユキさん（80）は13日、住民の手を借りて無事な家財道具を運び出していた。夫信一さん＝当時（80）＝が東日本大震災の津波で亡くなり8年7カ月。一人きりの自宅で不安な夜を明かし、「普段の景色が一変してしまった。でも、この家を離れたくない」とつぶやいた。

13日午前0時ごろ、自宅を揺らす大きな音でたたき起こされた。裏山で土石流が発生し、流木や大量の土砂が流れ込む。「健康のため、階段を上り



下りすることが大事」と、普段から2階で就寝していたことが命を救った。

3年前の台風10号豪雨は周囲の道路が冠水した程度だったが、今回は想像を上回った。「急いで玄関を開けて、土砂がたまらないようにするだけで精いっぱいだった」と振り返る。幸い、固定電話は使えたため、近所の人に連絡して救援を待った。13日正午。芦生さんの自宅周辺は、大人の膝の高さまで積み重なった泥が復旧を阻んでいた。

芦生さんは近所に暮らす妹から事前避難を促されていたが、信一さんや子どもたちとの思い出が詰まった家を離れることはしのびがたかった。基礎をかさ上げして災害に備えていた自宅だが、今後の生活再建が重くのしかかる。

「震災の津波に続き、今度は山津波。一晩でここまでひどくなるとは思ってもなかった」

自宅に押し寄せた土石流に言葉を失う芦生ユキさん（写真左）＝13日午後0時5、普代村中心部

県道寸断 暮らし直撃

台風被災の田野畑沿岸 2019.10.30



台風19号の豪雨で田野畑村沿岸部の県道が寸断され、住民らが内陸部への遠回りを余儀なくされている。11月に控えるアワビ漁など漁業への影響も懸念されるほか、三陸道建設の資材運搬ルートも遮断され、国が県道の応急復旧を急ぐ異例の事態となっている。

同村機の主婦小長根香奈子さん（68）は、県道の寸断で最寄りの郵便局に遠回りしていくより、普代村の郵便局へ行く方が早くなった。アワビの口開けを前に「羅賀で毎年アワビの身をむく手伝いをしてきたが、遠くて行けない。早く直してほしい」と訴える。

同村では明戸一机間と松前沢の県道が複数箇所ですり抜け、南北の移動に支障が出ている。明戸地区には三陸道の橋脚建設に用いる生コンクリート（生コン）製造工場があるが遠回りを余儀なくされて

いる。

三陸国道事務所によると、生コンは工場を出て90分以内に使用しなければいけないが、迂回（うかい）だけで約1時間かかるため現地に間に合わない恐れもある。

県の復旧工事を待っているのは来年度の三陸道利用開始に間に合わない恐れがあるため、21日から国が資材運搬路として一部の応急復旧を始めた。

写真

三陸道の資材運搬路として応急復旧が進む田野畑村松前沢の県道

